

－ はじめに －

平成30年度は、平成28年に実施された児童福祉法改正(児童が権利の主体であることが明確に位置付けられ、家庭における養育環境と同様の養育環境、または、児童ができる限り良好な家庭的環境において養育されるよう必要な措置を講ずること)や、それを受けた社会的養育ビジョンをもとに都道府県社会的養育推進計画の策定の取り組みが始まった年であった。

そうした中、当法人においてはこれまで以上に社会の変革に対応できる人材の育成に力を入れ、さらなるステップアップのために自己研鑽を促すとともに、各種研修へ積極的に参加させた。

また、平成30年度も新しい人材確保のため各種職員採用試験を実施し、延べ37名が受験をし、その結果愛童園4名、ちぐさ1名を正職員として採用することができた。

法人の課題であった丸の内保育園の改築は、高知銀行の協力により仮園舎用地を確保し、令和2年2月の竣工を目指して改築工事に着手することができた。

以下、高知県福祉事業財団5施設は児童福祉法をはじめ児童憲章等、理念の趣旨を順守しながら実施した平成30年度の事業計画に掲げた取り組みは次のとおりである。

児童養護施設 子供の家

昭和24年の開園以来70年が経過し、この間の子どもを取り巻く環境の大きな変化にともない入所理由も変わってきたが、子供の家から社会に巣立っていった児童、あるいは家庭等に復帰した児童は合計1,017名に及んでいる。

平成28年に児童福祉法が大幅に改正され、権利の主体者を児童とより明確に位置付け、さらに家庭支援が強化されることとなった。

子供の家では児童福祉法や子どもの権利条約の理念のもと、平成28年12月に策定した子供の家の運営理念、運営目標に基づき、児童の最善の利益のために、養育及び自立支援に取り組んできた。

◎平成30年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 被措置児童への虐待防止研修を始め様々な研修に職員を参加させるとともに、職員会や施設内研修を通じ、養育者としての資質の向上に努めた。
- ② ブロック会や意見箱、さらに児童アンケート等により児童の声の把握に努め、個々の児童に応じた養育に取り組んだ。

(2) 児童の養育・支援

- ① 心理療法担当職員を3名配置しきめ細やかなケアを実施するとともに、担当職員、心理士、看護師等の専門職が連携し児童に応じた養育に努めた。
- ② 教員退職者、大学生等のボランティアの協力を得て学習会を実施するとともに、

受験生には学習塾を積極的に活用し学力の向上を目指した。

◆医療的ケア

- 医療的ケア対象児童数 22名
- 全児童延べ受診者数 1,183名
- 主な医療機関 医療センター・高知大附属病院・高知赤十字病院 他

◆心理療法

- 心理療法対象児童数 19名
- 年間延べ実施日数 240日
- 1日当たり平均実施時間 1時間

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応対象児童数 14名
- 個別対応年間実施日数 100日
- 1日当たり平均実施時間 30分

◆平成31年3月に中学又は高校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中学	男	○		県立高知丸の内高校
2	〃	男	○		県立城山高校
3	〃	男	○		県立高知北高校
4	高校	男		○	太田商事株式会社(愛知県)

(3) 家庭支援の強化

- ① 社会福祉士の資格を持つ職員等2名を家庭支援専門相談員として配置し体制の強化を図り、関係機関と連携し家庭支援に取り組んだ。
- ② 児童と家庭の関係再構築のために、面会、外出、一時帰宅などを児童相談所とも連携しながら積極的に行った。

(4) 事故防止と危機管理

- ① 防災マニュアルを見直すとともに、年間避難訓練計画に基づき火災、地震、津波や不審者を想定し、様々な形で避難訓練や消火訓練を実施した。
- ② 備蓄食料等の点検を随時行うとともに、地域の避難所としての役割を果たすため、日頃より積極的に地域活動に参加をし地域との関係を深めた。

(5) 家庭的養護の推進

- ① 将来の全ブロック小規模化を目指し、小規模グループケアを5ブロックとするとともに、各ブロックに専任職員を2名配置し地域分散化を見据え職員のスキルアップに取り組んだ。

(6) 関係機関連携と地域支援

- ① 地域の関係組織との連携のもと、地域の子育て支援のニーズや情報の収集に努めた。
- ② 8自治体と業務委託の契約を締結し、ショートステイの受け入れを行った。

(7) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 階層別研修や専門職研修に積極的に職員を参加させ、スキル、キャリアアップを図った。
- ② 職員会、ケース検討会等の各種会議を適宜行い情報の共有化を図り、施設運営の向上に努めた。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 3回 / 5名 ○中四国養協関係 4回 / 8名
- 県養協関係 3回 / 15名 ○全社協関係 2回 / 4名
- 各種専門研修 3回 / 5名 ○県社協関係 2回 / 4名
- 法人内研修 5回 / 122名 ○その他 4回 / 5名

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
定員(暫定)	70名 (57名)	70名 (58名)	70名 (56名)	70名 (54名)	70名 (52名)
在籍児童数	47名	42名	46名	38名	47名
職員数	34名	37名	36名	40名	38名

※職員数：臨時・パートを含む

◆平成30年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	39	39	39	41	42	43	43	43	43	46	48	48
入所	1	0	0	4	0	1	0	0	3	0	2	0
退所	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

◆学年別児童数

平成31年3月31日現在

	就 学 前		小 学 校						中 学 校			高 校			そ の 他	計
	3歳 未 満	3歳 以 上	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年	3 年	1 年	2 年	3 年		
男	0	6	2	0	2	3	1	2	2	3	3	2	4	0	2	32
女	0	5	1	0	3	1	1	0	1	1	0	1	1	0	0	15
計	0	11	3	0	5	4	2	2	3	4	3	3	5	0	2	47

◆入所主訴理由別児童数

平成31年3月31日現在

入所理由	人数	構成比	入所理由	人数	構成比
父母の行方不明	0	0.0%	虐待	27	57.4%
父母の離婚	2	4.3%	経済的理由	4	8.5%
父母の拘禁	2	4.3%	精神疾患・入院	8	17.0%
父母の傷病・入院	1	2.1%	その他	2	4.3%
父母の養育困難	1	2.1%			
			合計	47	100.0%

◆保育士、社会福祉士、介護等施設実習生の受入れ(県立大学、高知大学、高知工科大学、高知学園短大、龍馬ふくし専門学校、高知福祉専門学校等)

◆一時保護委託の状況(受託先:児童相談所)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成30年度	7名	7名	310日
平成29年度	—	—	—
平成28年度	21名	24名	459日

◆子育て支援短期利用事業(契約先:高知市・南国市・安芸市・土佐市・いの町
佐川町・日高村)

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成30年度	6名	6名	29日
平成29年度	2名	2名	6日
平成28年度	8名	8名	60日

◆平成30年度主要な年間行事

- 4月 小・中家庭訪問、日教組高知・高知市教組来園
- 5月 子どもの日バイキング
- 6月 輪抜け祭
- 7月 浦戸湾・七河川一斉清掃、城東校区ドッジ、梅の実会来園
よさこいメダル作り、幼児ブロック遊びBBQ、福祉施設スポーツ大会
- 8月 ぶどう狩り招待、キャンプ
- 9月 鏡川ライオンズ BBQ 招待、江陽小教員との交流会
- 10月 インフルエンザ 予防接種(1回目)
- 11月 本庄だんじり祭ばやし来園、フリップモリスジャパン来園、ちぐさ祭り招待
インフルエンザ 予防接種(2回目)、中央ライオンズ みかん狩り招待

- 12月 韓国民団招待、総合避難訓練、市長サンタ来園、高知教会クリスマス招待
子供の家クリスマスパーティー、国丸ラーメン招待
- 31/1月 正月、新年夕食会
- 2月 節分豆まき、日赤赤野奉仕団来園、国丸ラーメン招待
- 3月 皿鉢料理寄贈、真宗寺招待
- 通年 「散髪奉仕団・風」による散髪奉仕(毎月第4月曜日)
FD試合招待、子ども劇場招待、その他多数の招待・来園

児童養護施設 愛童園

開園以来57年が経過する中、子どもと子育てを取り巻く環境はもちろん、児童養護施設の置かれた状況も大きく変化してきた。この間に愛童園から社会に巣立った、あるいは家庭等に復帰した児童は322名を数える。

近年、子どもや家庭をめぐる課題は複雑化、深刻化しており、特に親の離婚、貧困や子どもの発達障害などを背景とした虐待を入所理由とする児童が著しく増加している。そのため、入所児童に対し細やかな心理的サポート等が求められる場面が多くなっており、職員には高い専門性と児童に対するきめ細やかな配慮が、これまで以上に求められている。

愛童園は、児童の最善の利益のために、関係機関や地域社会と連携を図りながら、入所処遇の改善に日々取り組み、児童の幸せと心身の健やかな発達成長を見守り、社会的な自立を支援していく。

◎平成30年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 児童の権利擁護

- ① 職員は施設内外の研修に参加するなど人権感覚を磨き、養育者としての倫理観や責任感を持って児童に対応できるよう資質の向上を図った。
- ② 権利侵害により児童の心身の健康的な発達が妨げられないよう、個々の意見の集約や意見箱の設置等により把握を図り、児童一人ひとりが安全に安心して生活できるよう生活環境の整備や養育に努めた。

(2) 児童の養育・支援

- ① 日常的な生活援助と併せて、発達障害や知的障害のある児童に対しその障害の程度に応じた支援に学校や医療機関等と連携して取り組んだ。
- ② 学校と連携して就職情報を提供。児童が希望する職種選択の相談に乗るなどの就労支援を行った。
- ③ 学習ボランティアの協力も得て、学習環境の整備を行い児童の希望する進学校を目指した学習支援に取り組んだ。

(3) 心理的ケアが必要な児童への支援

- ① 在園児童の半数以上が心理療法を必要としており、児童相談所や専門機関とも

- 連携し、職員間で情報を共有しながら児童の心理的ケアに取り組んだ。
- ② 精神医学分野の知識習得のため、児童の発達過程に応じた支援のあり方について、芸西病院の理学療法士等と連携して個別のケース検討会を実施した。

◆被虐待児個別対応相談員の活動状況

- 個別対応児童数 9名
- 個別対応年間実施日数 45日
- 1日当たり平均実施時間 45分
- 心理担当職員との連携及び職員会での連絡、情報交換

◆平成31年3月に中学校を卒業した児童の進路状況

児童	区分	性別	進学	就職	進路等の状況
1	中学	男	○		県立高知東工業高校
2	高校	女	○		私立広島工業大学
3	〃	男		○	香南市内企業(サービス業)

(4) 家庭支援の強化

- ① 家族の相談に応じるとともに、児童相談所や家族の居住する市町村・関係機関と連携し、児童と家族との関係調整を行った。
- ② 家庭引き取りに向けた児童と家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを行い、地域支援者会議を通して地域での受け皿づくりに努めた。
- ③ 児童相談所や市町村担当職員とのサポートケアを実施した。

(5) 事故防止と安全対策

- ① 事故発生対応マニュアル、食中毒・感染症マニュアルに基づいて対応し、インフルエンザ等の流行期には予防措置を徹底した。
- ② 防災対策マニュアルに基づき各種避難訓練、防火・防犯訓練を定期的実施した。また、福祉避難所としての役割を果たせるよう、行政と連携を密にした取り組みを行った。

(6) 家庭的養護の推進

- ① 家庭的養護の推進には、職員による養育の質の向上が不可欠であり、各種研修会へ積極的に参加した。
- ② 先進施設の視察を行い、本施設の構造や地域との関わりを踏まえた小規模化のあり方について、県計画を見極めながら検討を進めた。

(7) 関係機関連携と地域支援

- ① 要保護児童対策地域協議会に参加し、見守りの対象となる児童や家庭の情報を共有して対策を協議し、実践に努めた。
- ② 児童相談所と連携し、ケース会、面会、通所など児童の支援状況により、家庭も含めての情報共有に努めるとともに、一時保護の受け入れを行った。
- ③ 4自治体と業務委託契約を締結、ショートステイの受け入れを行い、養育里親

のレスパイトケアにも繋がった。

- ④ 町民運動会や神社の伝統行事、盆踊り等に参加するなど児童と夜須地域との交流を行った。

◆一時保護委託の状況（受託先：児童相談所）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成30年度	3名	3名	26日
平成29年度	0名	0名	0日
平成28年度	5名	5名	89日

◆子育て支援短期利用事業（受託先：香南市、安芸市、香美市、芸西村）

項目	利用実人員	延べ利用人員	延べ利用日数
平成30年度	3名	7名	9日
平成29年度	1名	6名	8日
平成28年度	2名	3名	14日

(8) 職員の資質と施設運営の向上

- ① 児童の養育全般、虐待・発達障害等の専門分野別研修など、県内はもとより全国、中四国で実施される研修に参加し、職員のスキルアップを図った。
- ② 外部講師による園内研修として、交通事故防止講習を実施するとともに、救急救命講習、防犯講習にも参加し、児童の安全、安心な環境形成に努めた。
- ③ 第三者評価結果の指摘や指導を踏まえ、施設としての課題を職員で共有し、マニュアル等の見直しなどの検討を図った。

◆各種研修会等への参加状況

- 全養協関係 6回／6名 ○中四国養協関係 2回／3名
 ○県養協関係 7回／13名 ○各種専門研修 6回／6名
 ○その他 3回／16名

また、施設実習終了後「児童の処遇のあり方」について実習生反省会を兼ねた研修会を5・9・2月の年3回全員参加で実施した。

◆年度別児童・職員数

各年度3月31日現在

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
定員（暫定）	30名 (29名)	30名 (28名)	30名	30名	30名 (29名)
在籍児童数	27名	24名	23名	22名	20名
職員数	17名	16名	17名	19名	19名

※職員数：臨時・パートを含む

◆平成30年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	22	23	23	23	23	24	24	24	24	23	23	22
入所	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2

◆学年別児童数

平成31年3月31日現在

就学前		小学校						中学校			高校			その他	計	
3歳未満	3歳以上	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	1年	2年	3年			
男	0	2	0	1	0	0	2	1	1	1	1	1	1	0	0	11
女	0	4	0	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	9
計	0	6	0	3	0	0	2	1	2	1	1	3	1	0	0	20

◆入所主訴理由別児童数

平成31年3月31日現在

入所理由	件数	構成比	入所理由	件数	構成比
父母の行方不明	0	0.0%	虐待	10	50.0%
父母の離婚	0	0.0%	経済的理由	0	0.0%
父母の拘禁	0	0.0%	精神疾患・入院	0	0.0%
父母の傷病・入院	0	0.0%	措置変更	5	25.0%
父母の養育困難	5	25.0%	その他	0	0.0%
			合計	20	100.0%

◆平成30年度主要な年間行事

- 4月 新年度ホーム編成、花見会、小中学校家庭訪問
- 5月 GW買物ツアー、施設実習(龍馬学園)、第1回中央児相サポートケア
- 6月 第1回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議、施設実習(龍馬学園)
- 7月 七夕祭り、
- 8月 安田川キャンプ、手結盆踊り参加、福祉避難所開設運営模擬訓練
- 9月 施設実習(高知学園短大)、小・中学校合同運動会、高校体育祭
- 10月 第2回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議、保育・幼稚園合同運動会、夜須町民運動会
- 11月 夜須八幡棒打ち、洪水避難訓練
- 12月 クリスマス会、ワールドメイト、グリーンコール
競輪選手会もちつき、開園記念日会食会
- 31/1月 お正月、卒園旅行

- 2月 節分豆まき、施設実習(高知福祉専門学校)、第2回中央児相サポートケア
第3回要保護児童対策地域協議会地域支援者会議
- 3月 防犯訓練、園内研修(芸西病院合同)

母子生活支援施設 **ちぐさ**

昭和22年、戦後の混乱期に恩賜財団同胞援護会高知支部の経営により高知県最初の母子寮として、相生町に「千草母子寮」(定員5世帯)を開設しました。

その後、経営組織を改組し、社会福祉法人高知県福祉事業財団を設立し今日に至り、平成9年児童福祉法の改正により「母子生活支援施設ちぐさ」と名称も変更となりました。

平成10年には現在地に移転新築(定員30世帯)し、母と子が一緒に生活できる唯一の児童福祉施設として、広く県内外から母子を受け入れてまいりました。

百石町に移転以来平成31年3月末までに178世帯が入所し、161世帯が自立していきました。

これからも母子の権利擁護に努め、自立に向けた支援に努めてまいります。

◎平成30年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) **母と子の権利と尊厳の擁護**

母と子が一緒に生活できるという特徴を持った唯一の施設として「ちぐさ理念」に掲げ、それぞれの生活課題に向き合い、安全な居場所の提供と自立に向けた考えを尊重しその歩みをともにした。

(2) **利用者の意向を意識しつつ目標設定を行い、切れ目のない支援の展開**

年度当初に15世帯の処遇支援方針を作成し、毎月2回の職員会でその課題を共有し、随時見直し対応に努めた。

(3) **ハローワーク等就労支援機関と連携し、経済的自立への道筋をつける。**

延べ求職者6名。そのうち同行支援はハローワーク(はりまやジョブセンター)4名、うち1名が就労した。

(4) **子供の育ちを保障するために、養育・保育に関する支援を行う。**

延べ332名の幼児の預かり保育を実施した。

(5) **母親に対して基本的な生活習慣の支援**

育児はもとより掃除、食事、入浴に関して未熟な母親が多くその都度職員が部屋に入り、手伝い助言した。

(6) **DV被害からの回避・回復のため、広域利用や一時保護委託の受入を行う。**

平成30年度は、広域利用(県外、市外)についての受入はなかった。

また平成19年度から高知県女性相談支援センター等と一時保護委託契約を結び、10月に1世帯を4日間受け入れをした。

(7) 地域ニーズに対応するため、ショートステイ・トワイライトステイを実施する。
平成30年度はショートステイを3世帯3日延べ4人受け入れた。

(8) 防災・減災対策の実施

毎月1回避難訓練を実施。平成31年3月10日に南消防署員による消火訓練、地震の講話を受ける。

そのあと入居者と非常食を試食する。

(9) 職員の資質と施設運営の向上

母子生活支援施設協議会や社会福祉協議会の各種研修、関係機関等の主催する事例検討会等に29回延べ39名が参加し、それぞれのスキルアップに努めた。

◆年度別入所者数・職員数

各年度3月31日現在

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
定数（暫定）	27世帯 (24)	27世帯 (22)	27世帯	27世帯	27世帯 (26)
入所世帯数	21世帯	24世帯	22世帯	15世帯	17世帯
入所人数	51名	61名	54名	38名	43名
職員数	9名	9名	10名	10名	10名

※職員数：臨時・パートを含む

◆平成30年度 月別世帯数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	15	14	15	15	15	15	14	14	14	16	16	17
入所	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0
退所	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0

◆平成31年3月31日現在の入所世帯状況 (定員27世帯 暫定26世帯)

入 所 世 帯 の 状 況	入所者数	17世帯43名 (内児童数26名)				
	市内・県内外別世帯数	高知市内 ⇒ 10		県内市町村 ⇒ 6		県 外 ⇒ 1
	主たる入所理由	D V ⇒ 6		住居の確保 ⇒ 0		養育支援 ⇒ 11
	在所年数	5年以上 / 8		3~5年 / 3		1~3年 / 3
	就労者の状況	常雇 5名		パート 6名		無職 6名
	母親の年齢構成	10代/0名		20代/6名		30代/4名
		40代/7名		50代/0名		
	子どもの年齢構成	乳幼児 10名		小学 10名		中学 5名
	高校 1名		大学 0名			

◆各種研修会等への参加状況（29回／39名）

- 安全衛生推進者養成講習 1名
- 子どもと施設の権利擁護全国ワークショップ 1名
- 第40回全国母子生活支援施設職員研修会 1名
- 所内事例研修《子供の家》3回 3名
- 事例研修《女性相談支援センター》6回 6名
- 施設における感染症対策研修 1名
- 社会的養護を担う児童福祉施設長研修会 1名
- 心理療法研究所カウンセリング講座 1名
- ケアステップアップ地域研修 1名
- 佐川町虐待防止研修会 2名
- 平成30年度県児童養護施設等基幹的職員研修 2回 4名
- 福祉サービス苦情解決セミナー 2名
- 高知市児童虐待対応研修 3回 3名
- 母子生活支援施設職員指導研修 2名
- 平成30年度ファミリーソーシャルワーク研修会 1名
- 中四国ブロック母子生活支援施設研修会 3名
- 高知心理療法研究所第3回カウンセリング講座 1名
- 福祉サービス第三者委員ブロック別研修会 2名
- 全国母子生活支援施設研究大会 3名

◆主な年間行事

- 4月 高知城公園で小学生花見、母親健康診断(1回目)、退寮者との集い
- 5月 鯉のぼり昼食会
- 7月 高知市スポーツ交流会フットサル、ハイキング(大樽の滝・横倉山)
- 8月 土佐山田まつり参加、第65回よさこい祭り参加、親子レク(足摺・愛南町)
巨峰園プール招待、母親健康診断(2回目)

- 11月 ちぐさ秋まつり、「浜幸」様による高知で一番早いクリスマス、みかん狩り
- 12月 クリスマス会
- 31/3月 ひな祭り昼食会、南消防署員立ち会いの地震想定避難訓練及び非常食試食会、進級・進学祝い旅行

子育て支援センター あい

地域子育て支援拠点事業として、子育て中のお母さんお父さんが、子育てが楽しくなるよう子育て情報交換・育児相談を行うとともに、親子が楽しく遊べる場所を提供するなど地域の子育てを応援している。

また、毎月子育て通信「あい」を発行し、行事内容の紹介を行うとともに（高知市保育幼稚園課・高知市子ども育成課・南部健康福祉センター等にも送付）、市や他サ

ーケルの講座パンフレットを備えるなど、子育て支援のための情報提供に取り組んでいる。

また、今年度より潮江市民図書館に子育て通信「あい」を置いてもらっている。さらにネット利用の多い実情もあり高知県の「こうちプレマネ net」に載せて広く広報に努めている。

◆職員数 2名（主任指導員及び指導員）

平成30年度の登録児童数 153名	
事業内容	① 育児相談 263件 (参考：平成29年度 148件・平成28年度 108件・平成27年度 100件)
	② 育児講座・・・実施回数14回 ※参加延べ人数 531名 (親：261名 子：270名)
	③ 遊び場提供 ○開所日数 243日
30年度施設利用状況 延べ人数 5,653名 (親：2,540名 子：3,113名)	
参考	：平成29年度 延べ人数 5,748名 (親：2,698名 子：3,050名)
参考	：平成28年度 延べ人数 5,577名 (親：2,668名 子：2,909名)
参考	：平成27年度 延べ人数 4,613名 (親：2,250名 子：2,363名)

平成30年度育児講座内訳

開催月	講座名
4月	みんなで遊ぼう
5月	いろいろなおもちゃで遊ぼう
6月	歯のはなし、離乳食教室
7月	救急時の判断
開催月	講座名
8月	子どもの髪の手入れ
9月	調理実習幼児食
10月	あいあい運動会
11月	のいち動物公園へ遠足、離乳食教室
12月	クリスマス会
1月	陶芸講座
2月	乳幼児の心と身体の発達とマッサージ
3月	お楽しみ会

開園以来71年を経過し、本園は地域園芸農家及び勤労者家庭の児童の福祉増進に寄与してきたところですが、近年、核家族化の進展、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応し、子どもや保護者に必要な支援が求められています。一人ひとりの子どもが健やかに成長するよう、保護者に対する支援と地域の子育て家庭に対する支援を職員の専門性を活かしながら取り組んできました。

◎平成30年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

(1) 一人ひとりを大切にされた保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 子どもの心を受け止め相互的なやり取りを重ねながら、見通しをもった育ちの援助を行った。
- ② 家庭と連携を密にし、子どもが安心して過ごせる場となるよう援助や関わりを行った。
- ③ 年間計画を立て一人一人の成長に合った見通しがもてる保育に努め、子どもが健やかに成長し、豊かな活動に取り組めるよう援助を行った。

(2) 早出・居残り、乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 保護者の就労時間に応じた長時間保育を行った。
- ② 乳幼保育では積極的に取り組み、途中入所も受け入れ園児の増加に努めた。
- ③ 障がい児保育では研修に参加し、専門知識を身につけ保護者とともに子どもの育ちや支援に努めた。また園の行事では、装具の創意工夫こらし出来る限り他児と同じようにできるよう努めた。

(3) 世代間交流事業、異年齢児交流事業、園庭開放等保育所地域活動事業の実施

- ① 園庭開放は、年間14名の来園者があり入園にも結びついた。
- ② 異年齢児交流では、卒園児童との異年齢交流の中で豊かな生活体験を始め保育内容の充実に努めた。
- ③ 世代間交流事業では、地域の老人施設慰問、老人宅訪問をする中で人をいたわり、思いやりの気持ちが育つよう努めた。
- ④ 地域のイベントにも参加するように努めた。(みなと未来まつり、三里地区夏祭り、たね・シェル作品展)

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 職員会や園内研修などで、園児の特性等の情報を職員間で共有し、個々の対応に連携して取り組んだ。
- ② 家庭環境に対する支援については、職員間の連携を図り関係機関とも協働・連携した取り組みを行った。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上

- ① 保育実践や研修などを通じて保育の専門性を高め、職員同士の共通認識をもった取り組みをした。キャリアアップ研修にも参加し質の向上に努めた。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育の実施

- ① 保育が必要な家庭を対象に、平日午後7時00分までの延長保育に努めた。また、就労だけでなく家庭状況に応じて対応した。

(7) 園児の体力づくりのための体操指導、英語講師による異文化への関わりの実施

- ① 体を動かす楽しさ、大切さを知り柔軟な体づくりに取り組んだ。
- ② オーストラリア出身の講師と一緒に、英語を交えたゲームや遊びの実施に取り組んだ。

(8) 避難訓練や防災活動の実施、及び関係機関と連携し、園舎改築についての取り組み

- ① 地域の中学校との合同訓練や自園の津波避難訓練計画に基づいた避難訓練、また防災活動を実施した。中学校とは、合同訓練を行い高知東警察署・三里交番の方とも合同訓練をし、評価をいただき次の訓練に活かすようにしている。
- ② 防災対策、マニュアル等に基づく実践、不審者対策等様々な想定をふまえた訓練を実施した。

(9) フッ素洗口の取り組み

- ① 4、5歳児を対象週5回を目安に、フッ化物洗口液でうがいを行った。
- ② フッ素洗口する事で口の中の細菌の働きを弱め、むし歯予防・歯の質を丈夫にする。

(10) 主食の提供

- ① 幼児組に園で炊きたての主食の提供を始めた。(現金徴収) 平成30年8月1日開始

平成31年3月31日現在

定員	90名
職員数	27名(正職10名、臨職8名、パート9名)
保育時間	平日(7:30~19:00) 土曜(7:30~17:30)
早出、居残り児童	早出児童86名、居残り児童86名

※嘱託医内訳(歯科医1名・内科医1名)

◆在籍児童数

平成31年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	20	12	13	12	22	13	92

◆年度別：月平均在籍児童数

年 度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
3歳児以上	64名	64名	54名	55名	46名
3歳児未満	36名	39名	35名	30名	38名
計	100名	103名	89名	85名	84名

◆平成30年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	76	76	77	77	80	87	88	90	91	91	92	92
入所	0	0	1	0	4	7	3	3	1	0	1	0
退所	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・・・・・・・・9名
- 給食関係研修・・・・・・・・・・8名
- 保育士研修・・・・・・・・・・80名(高知県/高知市/全国保育士会)
- 保育業務に関する研修・・66名(特別支援(障がい児)保育研修会・発達障がいセミナー、リズム&ダンス研修・人権研修他)
- 危機管理研修・・・・・・・・・・1名
- 防災研修・・・・・・・・・・1名

◆平成30年度主要な年間行事

- 4月 入園式・対面の日、内科健診、幼児組懇談会、こども110番訪問(4・5歳児)
- 5月 親子こいのぼり運動会、老人ホーム慰問(シルバーマリン)
乳児懇談会、職場体験(中学生)、家族の日、みなと未来まつり
- 6月 小学一年生里帰り、参観日、歯みがき指導(学園短大生)、歯科検診、
交通安全教室(幼児組)、地域津波避難訓練不審者訓練、尿検査(4・5歳児)
- 7月 プール開き、七夕笹飾り(祖父母)、夏まつり、地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、三里地区夏祭り(4歳児)
- 8月 老人ホーム夏祭り(5歳児)
- 9月 敬老慰問、地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)
- 10月 運動会、内科健診、幼児組園外保育、火災避難訓練、芋掘り、サッカー教室(高知大)
- 11月 地震津波避難訓練(東警察署・三里交番合同)、記念写真、年長児お買い物、
保育の日、勤労感謝慰問、歯科検診、就学前健康診断
- 12月 もちつき、お店屋さんごっこ、人形劇観劇、クリスマス会、不審者訓練
- 31/1月 乳児組懇談会、地震津波火災避難訓練(中学校・東警察署・三里交番合同)、

火の用心（5歳児）

2月 豆まき、小学校一日入学（5歳児）、生活発表会、交通安全教室（5歳児）
幼児組懇談会、三里小学校おもちゃまつり

3月 卒園式、お別れパーティー、新入児保護者会、たね・ジェル作品展（5歳児出展）、お別れ遠足、不審者訓練

その他 ◆ お誕生会、火災避難訓練、体操・英語教室は毎月行っている。

◆ 食育集会、健康集会を学期に1回行っている。

保育所 丸の内保育園

開園48年の本園は、開設以来高知街地区の「たかしろ乳児保育園」とともに高知市乳児保育の推進役を果たしてきました。

近年、核家族化、少子化の進行、子育て家庭の地域からの孤立、子育て不安の増加等、子どもと子育てをめぐる環境が大きく変化し、すべての子どもたちの健やかな育ちを支えるとともに、入所する子どもや保護者に対する適切な支援が求められています。

また、家庭や地域など様々な社会との連携を図りながら、それらに向けた取り組みが行われています。

子ども子育て支援新制度が進められる中、子どもの連続した発達の保障、質の高い保育を目指し、研修体系の構築、専門性の向上を目指しています。

◎平成30年度事業計画に掲げた重点目標に対する主な取り組み

（1）安心して過ごせる家庭的な環境の中で一人ひとりを大切にされた保育を行い、質の高い養護、教育により子どもの育ちを保障

- ① 乳幼児期における情緒の安定や信頼関係の形成、一人ひとりの発達に応じた適切なかわりに留意し、質の高い保育、教育の安定的な提供に努めた。
- ② 保護者、家庭の生活の実態、子ども達の現状をしっかりと把握し、安心して安全に園生活を過ごすことができるよう職員間の共通理解のもと取り組んだ。

（2）早出・居残り、乳児保育、特別支援（障がい児）保育等、保護者の多様なニーズに沿った保育サービスの向上と情報の提供

- ① 入所する子ども達の育ちを支え、保護者の子育てを支えるため、0歳児の途中入所を多く受け入れた。
- ② 発達の気になる子ども、貧困など社会的な支援の必要性が高い子どもや家庭を含め、子育て家庭や子どもの育ちをめぐる環境の変化をふまえて柔軟に対応した。

（3）世代間交流事業、異年齢児交流事業、保育所地域活動事業の実施

- ① 地域の高齢者宅、デイケア施設等への訪問を行い、人をいたわる優しい心を育むことができた。
- ② 小学生の行事参加や地域の小学校との関わりを通し、年長児の就学に向けての連携を図ることができた。

- ③ 地域の商店街のイベントに年長児が参加し、地域の活性化に一役買った。
また、本園のPTA行事の際には、周辺の店舗にポスターを掲示させていただくなど、交流を図ることができた。

(4) 職員間の連携を図り、子育てに関する相談、家庭環境に対する積極的な支援

- ① 保護者との連携を密に園全体で子育て及び家庭支援の強化を図った。
- ② 家庭環境に対する配慮等、保育内容の充実を図るとともに、保健師、保育士による面談、相談の機会を設け園全体で取り組んだ。

(5) 保育士の資質向上と保育水準の向上について

- ① 施設内外の研修に計画的に参加し、職員の自己研鑽に必要な機会の確保に努め、研修後は職員会等で内容を共有した。
- ② 子ども・子育て支援制度、改定保育所保育指針についての理解等、一人ひとりが課題を明確にすることができた。

(6) 保護者の就労支援の為、延長保育、土曜午後保育の実施

- ① 保護者の就労支援の為、保育の必要な家庭対象に平日午後7時まで、土曜日は午後5時30分までの保育を実施した。

(7) 津波避難計画に基づいた避難訓練や防災活動への積極的な参加

- ① 様々な想定に基づいた訓練を積極的に実施した。
- ② 防災、減災対策の課題を共有しつつマニュアル、対応についての見直しを行った。

(8) 近隣に居住する保護者の少ない園ではあるが、今後は地域の子育て支援の機能を強化すべき取り組みの展開

- ① 保育園が地域子育て支援のニーズにこたえていく役目は年々増加している。
地域の子育て家庭とつながることの必要性を考え、地域の親子への園行事への参加の案内等、取り組みは進めてきた。地域と一体となった支援には十分結びついていないが、地域の児童民生員さんとも連携し、園児確保や開かれた園づくりを今後も考えていきたい。

(9) 園舎改築についての取り組み

- ① 改築に向け、施工業者も決定し、12月より仮園舎の設置を開始し、2月より仮園舎で生活している。本園舎は、令和2年2月の竣工を予定している。

平成31年3月31日現在

定員	120名
職員数	29名（正職11名、臨職12名、パート6名）
保育時間	平日（7:30～19:00） 土曜（7:30～17:30）
早出、居残り児童	早出児童45名、居残り児童92名
土曜日の午後保育	登録園児数45名、平均利用人数22名

※ 臨時職員12名中に特別支援担当保育士1名、特別支援加配保育士1名を含む

パート職員 6名は延長保育時間対応（3時間～6時間パート）
 嘱託医内訳（歯科医 1名・内科医 1名）

◆在籍児童数

平成31年3月31日現在

年齢別	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
児童数	16	18	17	21	23	16	111

◆年度別：月平均在籍児童数

年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
3歳児以上	58名	55名	55名	61名	61名
3歳児未満	57名	65名	65名	59名	45名
計	115名	120名	120名	120名	106名

◆平成30年度 月別児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総数	100	100	101	102	104	107	105	105	105	111	111	111
入所	7	0	1	1	2	3	0	0	0	6	1	0
退所	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0

◆職員の資質向上(=研修)への取り組み状況

- 乳児研修・・・8名
- 給食・アレルギー関係研修・・・9名
- 保育士研修・・・14名（高知県保育士会）

- 保育業務に関する研修・・・69名（特別支援(障がい児)保育研修会・家庭支援研修会、発達障がいセミナー・人権研修、絵本・遊びの研修、カウンセリング研修・プール・衛生、感染症、リズム研修、保育の日）
- 保小連携研修・・・5名
- 防災研修・・・4名

◆平成30年度主要な年間行事

- 4月 入園式、顔合わせ集会、乳幼児組別懇談会、個別懇談
- 5月 こいのぼり運動会、全園児健診、わんぱくこうち行き(年長児)、劇団ひこう船観劇(年長児)、検尿(4・5歳児)
- 6月 保育参観、離乳食試食(0歳児)、プール開き、歯科検診、不審者侵入訓練

- 園児・小学生(1年)の实践交流(小学生のプールあそび)
- 7月 市営プール行き(年長児)、七夕まつり、夕涼み会、夏の水遊び、
園児・小学生(2年)の实践交流(忍者修行アスレチック)
- 8月 第六小教員保育見学、保小連携合同研修会
- 9月 大掃除、通報総合避難訓練、敬老慰問、敬老の日行事(祖父母への手紙を出す)、高知市交通安全教室、未満児健診、秋の交通安全出発式、総合通報避難訓練(地震、火災)
- 10月 運動会、親子遠足、お芋ほり、筆山山登り(10~11月)
- 11月 木曜市お買物(年長児)、交通公園安全教室参加(年長児)、家族の日プレゼント、保育の日、全児童健診、園児・小学生の实践交流(学習発表会リハーサルを見る・おもちゃまつり)、就学前健康診断、オーテピア未来科学館(風で遊ぼう)
- 12月 バザー・お店やごっこ、おもちつき、クリスマス会
- 31/1月 初詣、お正月あそび、不審者侵入訓練、歯科検診
- 2月 豆まき、小学校一日入学(5歳児)、生活発表会、未満児健診、仮園舎引越
- 3月 卒園式、茶話会、お別れ遠足(香北青少年の家)、新入児保護者会、通報総合避難訓練(火災)
- その他 ◆ 毎月お誕生日会、避難訓練を行っています。
◆ 個別相談、育児相談は必要に応じて行っています。